

I-6

非定常熱弾性特性を考慮した平板の高次理論と連成熱振動解析

呉工業高等専門学校
山梨大学 工学部

○正員 丸上晴朗
正員 平島健一

1. 緒言

修正 Fourier 法則を用いた連成熱伝導方程式と3次元動熱弾性基礎式を出発点にして、変位・応力の力学場と温度場との連成を考えた平板理論の定式化を一般化高次理論を用いて行い、2次元化された支配式を誘導する。本報においては変位、温度等の物理量を板厚方向座標 \$z\$ のベキ級数と Fourier 級数との二通りに級数展開した場合について、高次理論の適用法とその解析過程を述べる。計算例としては、まず第一段階として求められた平板の支配式を限定した状態で考え、支配式中の奥行方向の成分(\$z\$方向成分)及び \$\frac{\partial}{\partial z}\$ に関する項をすべて削除すれば、はりの動熱弾性支配式が得られるので、ここでははりの場合について考えることとする。

2. 修正 Fourier 法則と3次元動熱弾性の基礎式

$$\circ \text{修正 Fourier 法則} : \quad T_0 \dot{g}_i + g_i = -\kappa_{ij} T_{,j} \quad (1)$$

\$g_i\$ は熱流束ベクトルの \$i\$ 方向成分、\$T\$ は基準絶対温度 \$T_0\$ からの温度変化、\$\kappa_{ij}\$ は2階の対称な熱伝導率テンソル、\$t_0\$ は緩和時間であり、この \$t_0\$ を零と置いたものが従来の Fourier 法則である。なお、\$i, j, k, \dots\$ 等は \$x, y\$ または \$z\$ を、\$\alpha, \beta, \dots\$ 等は \$x\$ または \$y\$ をとり、テンソルの和の規約を採用する。

$$\circ \text{エネルギー方程式} : \quad -g_{i,i} + \rho \dot{\theta} = \rho C_V \dot{T} - T_0 \hat{\beta}_{ij} \dot{u}_{i,j} \quad (2)$$

\$\rho\$ は密度、\$C_V\$ は等積比熱、\$\theta\$ は単位質量当りの熱源、\$\dot{u}_i\$ は変位速度ベクトルの \$i\$ 成分、\$\hat{\beta}_{ij}\$ は熱定数である。

$$\circ \text{Duhamel-Neumann の構成方程式} : \quad T_{ij} = C_{ijkl} E_{kl} - \hat{\beta}_{ij} T \quad (3)$$

\$C_{ijkl}\$ は弾性定数、\$T_{ij}\$ および \$E_{kl}\$ はそれぞれ応力およびひずみのテンソルである。

$$\circ \text{ひずみ・変位関係式} : \quad E_{kl} = \frac{1}{2}(u_{k,l} + u_{l,k}) \quad (4)$$

熱的ならびに弾性的に等方性の場合 \$C_{ijkl}\$, \$\hat{\beta}_{ij}\$ は次のようになる。

$$C_{ijkl} = \lambda \delta_{ij} \delta_{kl} + G(\delta_{ik} \delta_{jl} + \delta_{il} \delta_{jk}), \quad \hat{\beta}_{ij} = (3\lambda + 2G)\alpha \delta_{ij}, \quad \kappa_{ij} = \kappa \delta_{ij} \quad (5)$$

\$\alpha\$ は熱膨張係数、\$\kappa\$ は熱伝導率、\$\lambda, G\$ は Lamé の定数である。

3. 一般化高次理論としての支配式の誘導

3.1. 物理量を板厚方向座標 \$z\$ のベキ級数に展開する場合

前節に示した関係式を Fig.1 のような平板問題に適用するために、\$z\$ に関するベキ級数に展開して各物理量を表わす。

$$(u_i, g_i, T, \theta) = \sum_{n=0}^{\infty} z^n (u_i^{(n)}, g_i^{(n)}, T^{(n)}, \theta^{(n)}) \quad (6)$$

\$u_i^{(n)}, g_i^{(n)}\$ 等は \$x, y\$ および \$t\$ のみの関数である。

式(1), (2)に式(6)を代入し、両辺へ \$z^n\$ を掛け板厚にわたって積分するとそれぞれ次式のようになる。

$$\sum_{n=0}^{\infty} \left\{ T_0 \dot{g}_i^{(n)} + g_i^{(n)} + \kappa_{ij}^{(n)} T_{,j}^{(n)} + (n+1) \kappa_{iz}^{(n)} T^{(n+1)} \right\} = 0 \quad (7)$$

$$\sum_{n=0}^{\infty} \left\{ -B_{nn} \left\{ \frac{g_{i,\alpha}^{(n)}}{b_{i,\alpha}^{(n)}} + (n+1) g_{i,\alpha}^{(n+1)} \right\} + \rho^{(n,n)} \dot{\theta}^{(n)} - T_0 \left\{ \hat{\beta}_{i\alpha}^{(n,n)} \dot{u}_{i,\alpha}^{(n)} + (n+1) \hat{\beta}_{i\alpha}^{(n,n)} \dot{u}_{i,\alpha}^{(n+1)} \right\} \right\} = \sum_{n=0}^{\infty} \left\{ (\rho C_V)^{(n,n)} \dot{T}^{(n)} - T_0 \hat{\beta}_{ij}^{(n,n)} \dot{u}_{i,j}^{(n)} \right\} \quad (8)$$

$$\text{ここに, } B_{nn} = \int_{-b}^b z^{n+m} dz = \frac{b^{n+m+1}}{n+m+1} \{ 1 + (-1)^{n+m} \} \quad (9)$$

$$\left\{ \rho^{(n,n)}, (\rho C_V)^{(n,n)}, T_0^{(n,n)}, \kappa_{ij}^{(n,n)} \right\} = \int_{-b}^b \left\{ \rho, \rho C_V, T_0, \kappa_{ij} \right\} dz \quad (10)$$

次に変位、応力の場を支配する2次元化支配式を導出するために次の Hamilton 原理の式を考える。

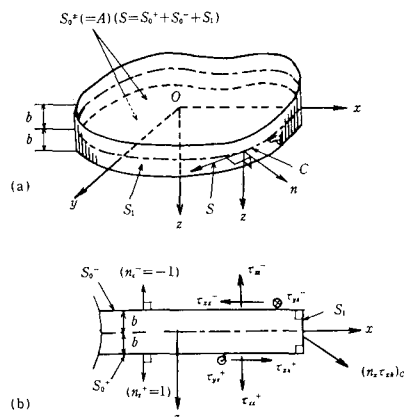


Fig.1 Geometry of plate and surface tractions.

$$\delta \int_0^t dt \int_V (\bar{T} - U) dV + \int_0^t dt \left\{ \int_S t_{ij} \delta u_{ij} dS + \int_V f_i \delta u_i dV \right\} = 0 \quad \text{----- (11)}$$

t_{ij} は表面力, f_i は単位体積当りの物体力, $\bar{T}$ および U はそれぞれ単位体積当りの弾性体に蓄えられる運動エネルギーおよびひずみエネルギーである。これらは次式で与えられる。 n_i は Fig. 1 のように定める。

$$\bar{T} = \frac{1}{2} \rho \dot{u}_i \dot{u}_i, \quad U = \frac{1}{2} t_{ij} \varepsilon_{ij}, \quad t_{ij} = n_i T_{ij} \quad \text{----- (12)}$$

式(6)を式(12), (11)へ代入し変分を行って整理すると次の場の支配方程式と境界条件式が得られる。

$$\text{○支配方程式: } \sum_{n=0}^{\infty} \left\{ C_{ijkl}^{(n)} u_{l,jk}^{(n)} + (n+1) C_{ijkl}^{(n+1)} u_{l,jk}^{(n+1)} + \hat{\beta}_{ij}^{(n)} T_{,n}^{(n)} \right\} - n \left\{ C_{ijkl}^{(n-1)} u_{l,jk}^{(n-1)} + (n-1) C_{ijkl}^{(n)} u_{l,jk}^{(n)} + \hat{\beta}_{ij}^{(n-1)} T_{,n-1}^{(n-1)} \right\} + F_{ij}^{(n)} + f_{ij}^{(n)} = \sum_{n=0}^{\infty} \rho^{(n)} \ddot{u}_{ij}^{(n)} \quad \text{----- (13)}$$

ここに, $F_{ij}^{(n)} = b^n \{ T_{ij}^{(n)} - (-1)^n T_{ij}^{(n)} \}$, $f_{ij}^{(n)} = \int_b^z z^n f_{ij} dz$, $(C_{ijkl}^{(n)}, \hat{\beta}_{ij}^{(n)}) = \int_b^z z^{n+m} (C_{ijkl}, \hat{\beta}_{ij}) dz$ である。

$$\text{○境界条件式: } T_{ij}^{(n)} \equiv \int_b^z z^n (n T_{ij}) dz = n T_{ij}^{(n)}, \text{ または } \bar{u}_{ij}^{(n)} = \bar{u}_{ij}^{(n)} \quad \text{----- (14)}$$

3. 2. 物理量を板厚方向座標 z に関する Fourier 級数に展開する場合

$$(u_i, g_i, T, g) = \sum_{n=0}^{\infty} (u_i^{(n)}, g_i^{(n)}, T^{(n)}, g^{(n)}) \cos \frac{n\pi}{2} (1-\eta) + \sum_{n=1}^{\infty} (\bar{u}_i^{(n)}, \bar{g}_i^{(n)}, \bar{T}^{(n)}, \bar{g}^{(n)}) \sin \frac{n\pi}{2} (1-\eta) \quad \text{----- (15)}$$

ここに, $\eta = \frac{z}{b} = \frac{z/b}{h}$, ($h = 2b$: 板厚), $u_i^{(n)}, \bar{u}_i^{(n)}, \dots$ 等はすべて x, y および z のみの関数である。

式(11), (12)に式(15)を代入し, 両辺に $\cos \frac{n\pi}{2} (1-\eta)$, $\sin \frac{n\pi}{2} (1-\eta)$ を掛け板厚にわたって積分すると式(7), (8)に対応する支配方程式が得られる。以下, 前項の場合と同様な操作を実行すると式(13), (14)に対応する支配方程式と境界条件式が得られるが紙面の都合上省略する。

4. 単純支持はりの連成熱振動解析

支配式(7), (8), (13) および 3. 2. の場合のこれらに対応する支配式は等質性の場合には, 共に面内(伸縮)挙動の支配方程式系と面外(曲げ)挙動のそれとに互に分離される。このことを利用し, さらに等方性の条件(この場合(5)が成立する)をつけて, はりの面外挙動すなわち曲げ振動解析を行う。ベキ級数展開の場合と Fourier 級数展開の場合に分けて考える。

4. 1. 物理量を板厚方向座標 z のベキ級数に展開する場合

いま式(6)の物理量を z^3 の項までの式で近似した場合(3rd-Order)の具体的な式は, 支配方程式系が分離されることを考慮すると, 次のようになる。

$$\left. \begin{aligned} u_x &= z u_x^{(0)} + z^3 u_x^{(2)}, \quad u_z = u_z^{(0)} + z^2 u_z^{(2)}, \quad g_x = z g_x^{(0)} + z^3 g_x^{(3)}, \quad g_z = g_z^{(0)} + z^2 g_z^{(2)}, \\ T &= z T^{(0)} + z^3 T^{(3)}, \quad g = z g^{(0)} + z^3 g^{(3)}. \end{aligned} \right\} \quad \text{----- (16)}$$

式(7), (8), (13) から 3rd-Order の場合について支配式を求め, 等質・等方性条件を設定すれば, 面外挙動の支配式は次のようになる。

$$\left. \begin{aligned} T_{,xx}^{(0)} + g_x^{(0)} + K T_{,x}^{(0)} &= 0, \quad T_{,xx}^{(2)} + g_x^{(2)} + K T_{,x}^{(2)} = 0, \quad T_{,xx}^{(0)} + g_x^{(0)} + K T^{(0)} = 0, \quad T_{,xx}^{(2)} + g_x^{(2)} + 3 K T^{(0)} = 0, \\ g_{x,x}^{(0)} + 2 g_z^{(2)} - \rho g^{(1)} + \rho C_v \dot{T}^{(1)} + (3\lambda + 2G) \alpha T_{,0} (\dot{u}_{x,x}^{(0)} + 2 \dot{u}_z^{(0)}) &= 0, \quad g_{x,x}^{(2)} - \rho g^{(3)} + \rho C_v \dot{T}^{(0)} + (3\lambda + 2G) \alpha T_{,0} \dot{u}_{x,x}^{(0)} = 0, \\ \frac{2}{3} B \{ (\lambda + 2G) u_{x,xx}^{(0)} + (2\lambda - G) u_{x,x}^{(2)} - (3\lambda + 2G) \alpha T_{,x}^{(0)} \} + \frac{2}{5} B^2 \{ (\lambda + 2G) u_{x,xx}^{(0)} - (3\lambda + 2G) \alpha T_{,x}^{(0)} \} - 2 G b (u_{x,x}^{(0)} + u_z^{(0)} + b^2 u_x^{(1)}) \\ + F_x^{(0)} + f_x^{(0)} &= 2 \rho \left(\frac{1}{3} \ddot{u}_x^{(0)} + \frac{1}{5} \ddot{u}_x^{(2)} \right), \end{aligned} \right\} \quad \text{----- (17)}$$

式(16)の物理量に境界条件を満足するように, z の係数を $u_x^{(0)} = u_{1x} \cos \frac{n\pi x}{a} e^{i\omega t}$, $u_z^{(0)} = u_{3x} \cos \frac{n\pi x}{a} e^{i\omega t}$, $u_z^{(2)} = u_{2z} \sin \frac{n\pi x}{a} e^{i\omega t}$, のように仮定して, (17)へ代入すると従属量 $u_{1x}, u_{3x}, u_{2z}, \dots$ 等に関して, 定数項がすべて 0 である同次の連立一次方程式が得られる。この方程式の係数行列式 = 0 の条件から固有振動数, 振動モード形が求められる。

4. 2. 物理量を板厚方向座標 z に関する Fourier 級数に展開する場合

4. 1. の場合と同じような取扱いを実行すればよい。

5. 結言

具体的な数値計算例および従来の理論による結果等との比較考察は学会当日に発表する。

参考文献 1 平島健一他, "非定常熱弾性特性を考慮した板の一般化高次理論の誘導と二つの考察", 奥高専研究報告 Vol. 20, No. 2 (1985), pp. 111~123.

2 丸上清朗他, "板厚方向にフーリエ級数展開を用いた熱弾性板の高次理論", 奥高専研究報告 Vol. 21, No. 1 (1985), pp. 81~91.

3 角城三郎他, "1次元の連成熱弾性振動と減衰", 九工学集報, 56 (1983), pp. 675~701.

4 Massalas, C. V. & K. K. Kalpakidis, "Coupled thermoelastic vibrations of a simply supported beam", J. Sound Vib., 88 (1983), pp. 425~429.